

宇部興産株式会社説明会

技術の翼と革新の心。
世界にはばたく私たちのDNAです。

2018年3月

宇部興産株式会社

I 宇部興産の概要

II 中期経営計画の概要

III 株主還元の考え方

I

宇部興産の概要

- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897（明治30）年6月
- ◆設立 1942（昭和17）年3月
- ◆代表者 山本 謙



- ◆本社（東京）東京都港区芝浦
（宇部）山口県宇部市
- ◆売上高 6,165億円（2016年度 ※1）
- ◆営業利益 349億円（2016年度）
- ◆純資産 3,104億円（2016年度）
- ◆連結子会社数 70社（2016年度）
- ◆連結従業員数 10,928人（2016年度）
- ◆上場取引所 東京・福岡（1949年上場）
- ◆単元株式数 100株 ※2

* 1:2016年度：2017年3月期

* 2:平成29年10月1日より1,000株を100株に変更

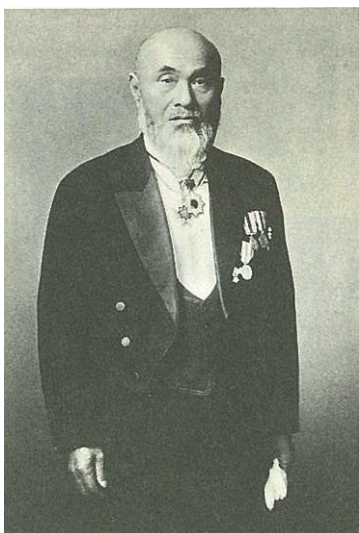
経営理念：

「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」

グループビジョン：

技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。

フロンティアスピリットを胸に無限の技術で世界と共生するUBEグループは、モノづくりを通して次代の価値を創造し続けます。



初代社長 渡辺 祐策

UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

独創的な技術力による「モノづくり」中心の事業活動と、時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。

経営理念：「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」



1897年

事業概要（事業別売上高シェアと主要製品）

➤ 2016年度 連結売上高：6,165億円

化学

売上シェア42%
(2,583億円)



- 合成ゴム
- ナイロン樹脂／原料
- 工業薬品

- 電池材料
- ファインケミカル
- ポリイミド
- 機能性材料

医薬

売上シェア2%
(109億円)



- 自社医薬（創薬）
- 受託医薬
- ジェネリック

建設資材

売上シェア37%
(2,272億円)



- セメント／生コン
- 各種建材

- 耐震補強
- 石灰石関連製品

機械

売上シェア12%
(716億円)



- 成形機（射出成形機／ダイカストマシンなど）
- 産業機械
- 橋梁

エネルギー・環境

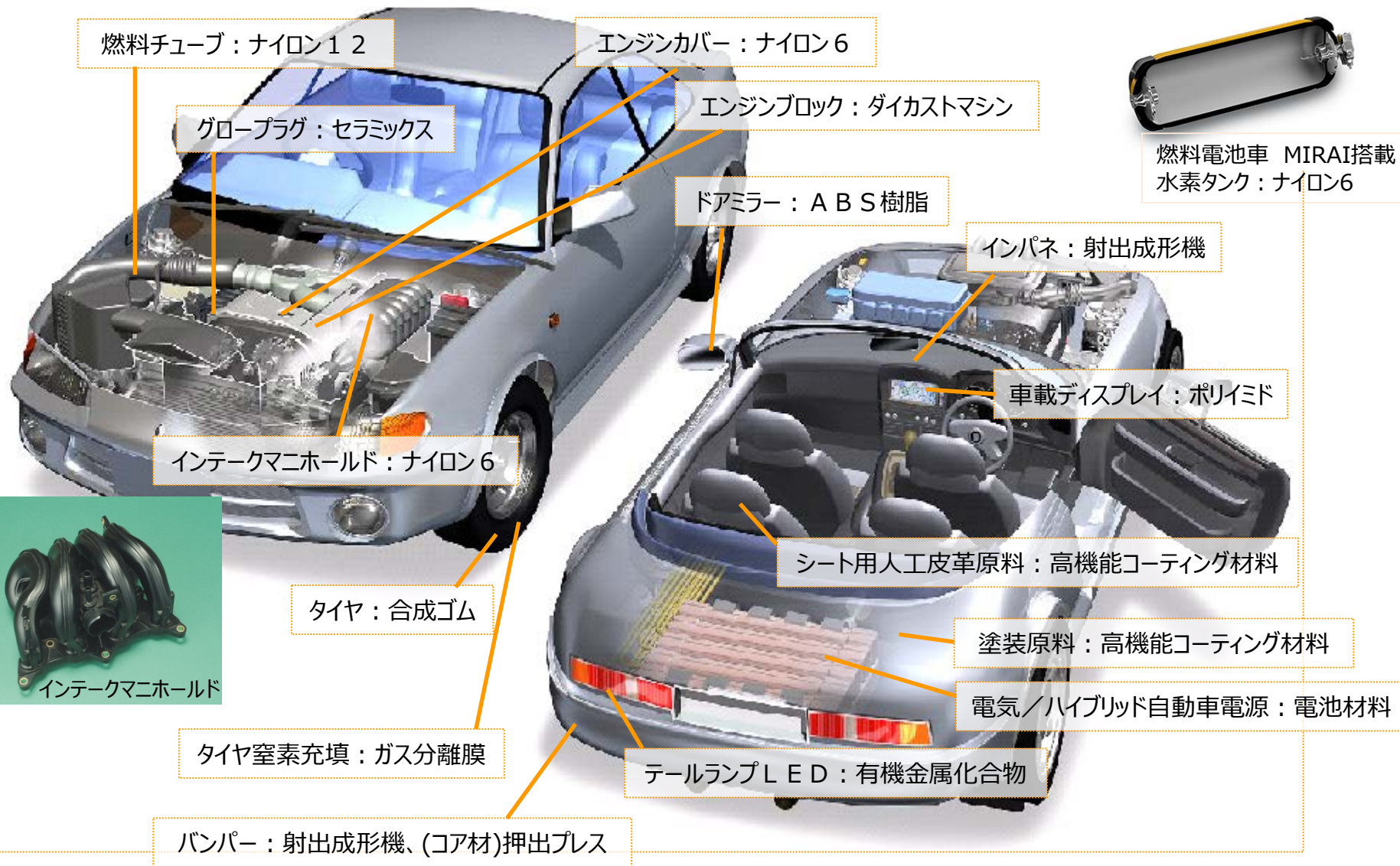
売上シェア10%
(597億円)



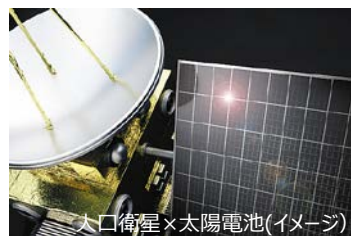
- 石炭貯蔵／販売
- 自家発電／売電

※

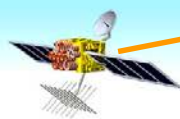
※：事業間の内部売上等があるため、シェアを合計しても100%にはなりません



身近なUBE製品② (航空・宇宙、エネルギー・環境、一般産業、インフラ)



人工衛星×太陽電池(イメージ)



人工衛星熱制御フィルム：ポリイミド

風力発電軸受け：セラミックス



大型ベルトコンベア

タンカー防爆：ガス分離膜

燃料：石炭

製鉄：石灰石関連製品

飛行機断熱材：発泡ポリイミド

海底ケーブル被覆：ポリエチレン

地盤改良用固化材

橋梁

光通信網：光ケーブル資材

魚網：ナイロン6

大規模施設、住宅：建材

ガスパイプ：ナイロン12

廃棄物：セメント原燃料化

肥料：硫安

ビル、道路：セメント、生コン



身近なUBE製品③ -医療・生活関連-

サッシ：押出プレス

防水材

バスマット

入浴剤

ゴルフボール、靴底：合成ゴム

保存容器：ポリエチレン

便座、洗面台：ABS樹脂

食品ラップフィルム

電動工具、電動自転車：電池材料

食品パッケージフィルム：ナイロン6

壁材

スポーツ靴：特殊ナイロン

化粧品：ヘリオフレッシュ®

床材：セルフレベルング材

薬：医薬原体・中間体

合皮ソファ：高機能コーティング材料

カーペット：カプロラクタム

カルブロック®

タリオン®

エフィエント®

RECERA
Hinoki Bath
5錠

NEW ポリラップ
0%
20

食品ラップフィルム

宇部地区主力工場地帯



伊佐セメント工場



建設資材事業
札幌建材営業所

建設資材事業
東北建材営業所

宇部三菱セメント(株)
サービスステーション 倉敷・水島

千葉石油化学工場
先端技術研究所

東京本社
宇部三菱セメント(株)

中四国宇部コンクリート工業(株)
坂出工場

宇部三菱セメント(株)
サービスステーション 松山・今治

- 宇部本社
- 基盤技術研究所
- 医薬研究所
- 宇部ケミカル工場
- 宇部藤曲工場
- 宇部セメント工場
- 技術開発研究所
- 沖の山コールセンター

伊佐セメント工場

苅田セメント工場

建設資材事業
九州建材支店

建設資材事業
広島建材支店

宇部日新石灰株式会社

中四国宇部コンクリート工業(株)
本社・安芸郡工場

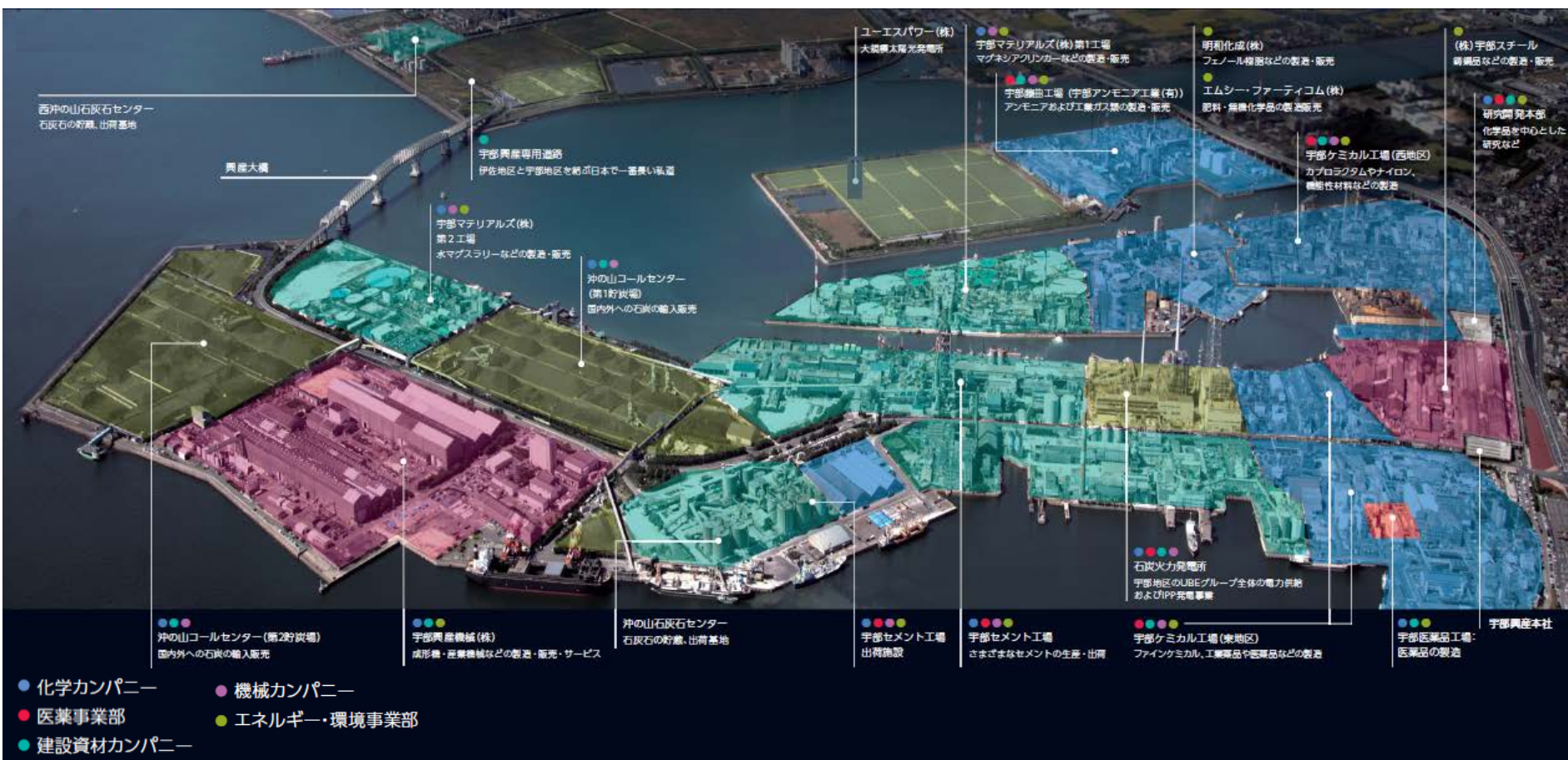
大阪支店
名古屋支店

堺工場
大阪研究開発センター

堺工場



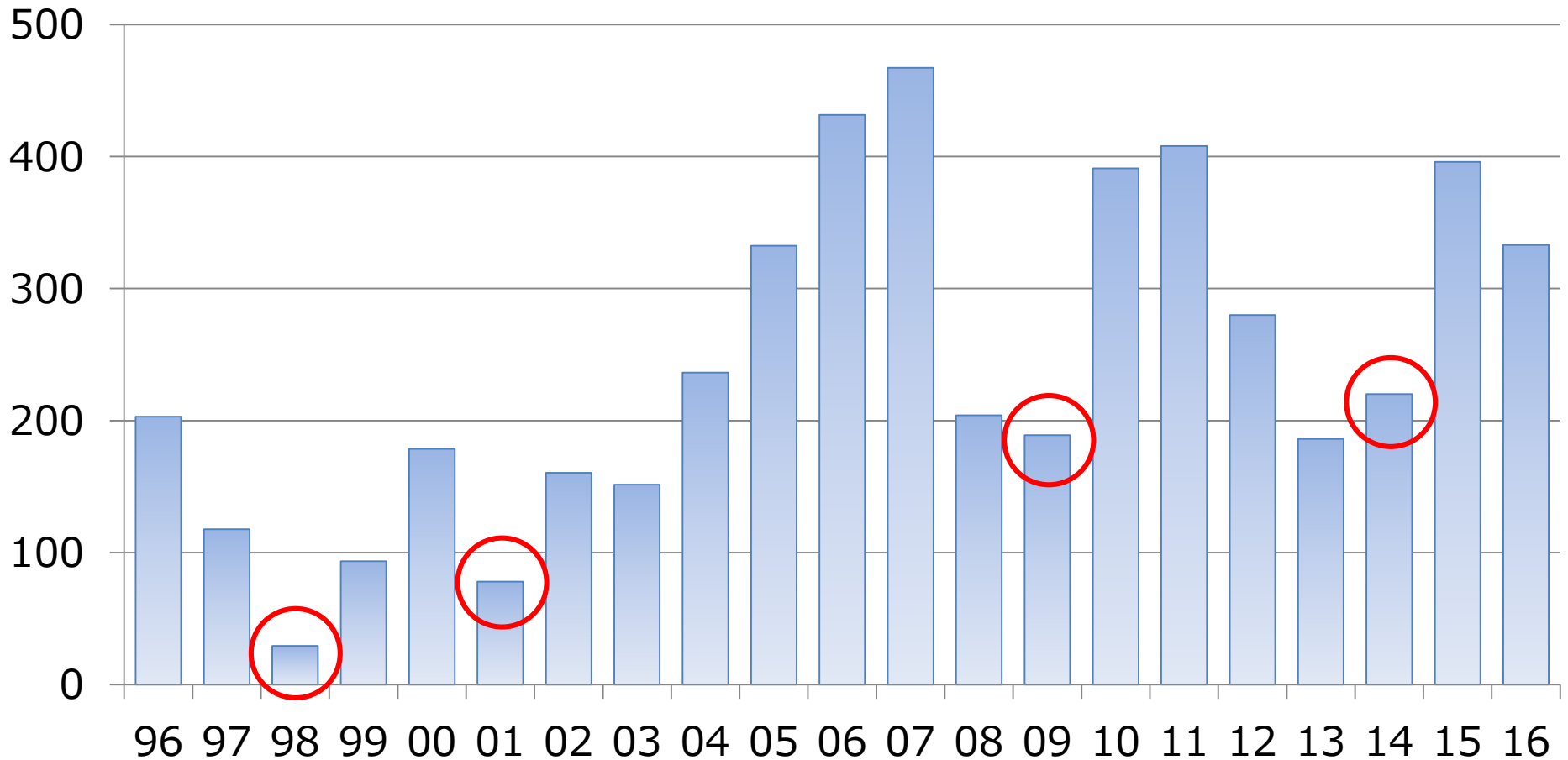
宇部興産は、創業以来、宇部の地で地域住民との共生を図りながら、事業に取り組んできました。グループの主力工場地帯である宇部地区では、宇部ケミカル工場や、宇部セメント工場、宇部興産機械（株）などが生産プロセスを密に連携することにより、UBEならではの価値を創出しています。さらに、発電所や、有機化学、有機・無機機能材料、自動車部材などの広範な分野の研究所も備えるなど、地域一体を価値創造プロセスとして機能させています。



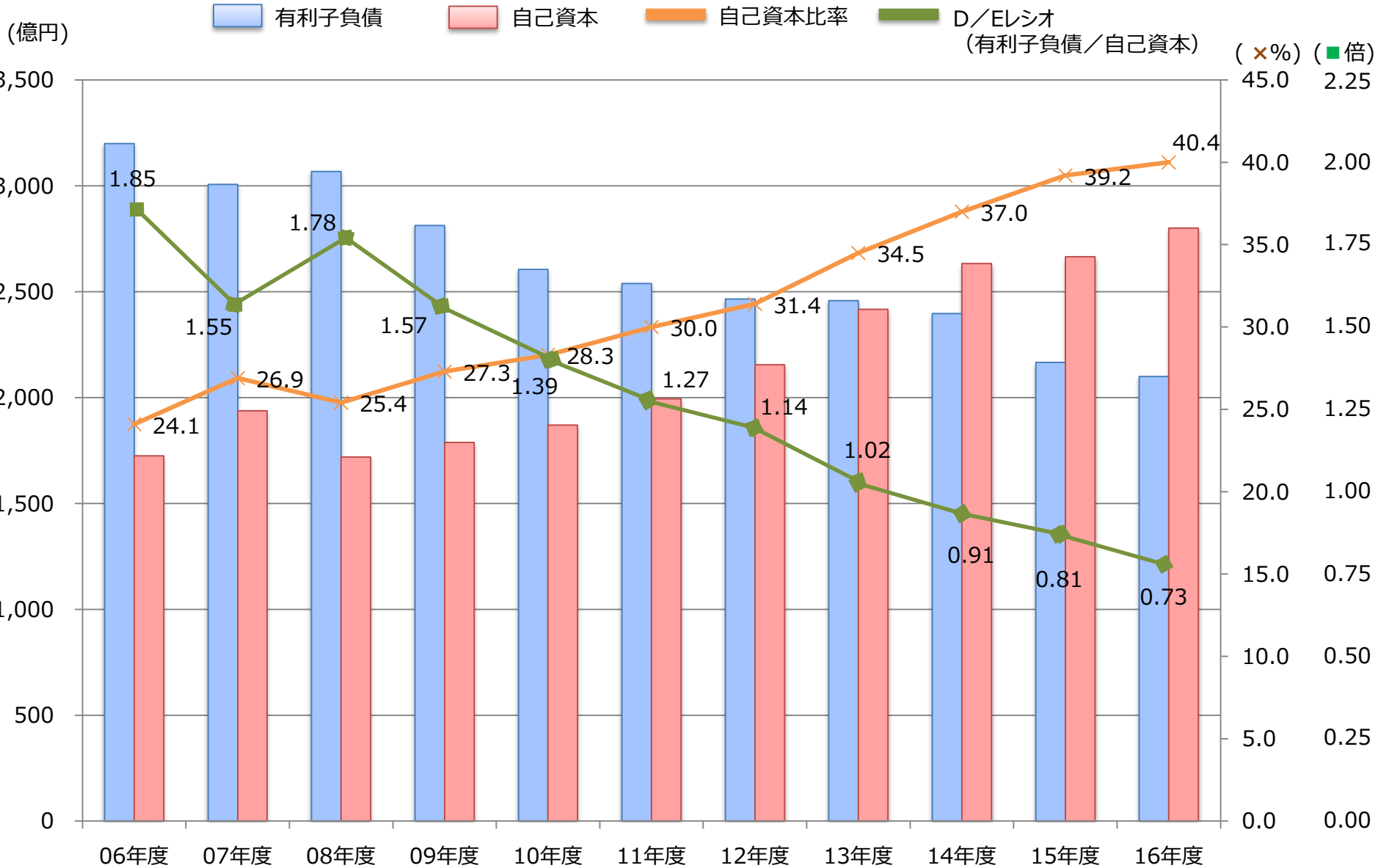


景気後退局面での連結経常利益の谷は着実に切り上がっている

億円



財務体質の推移



原燃料価格アップを見込むものの、
 拡販やスプレッド（原料と製品の値差）是正により増収増益の見通し

（単位：億円）

項目	'16年度	'17年度	差異
売上高	6,165	6,850	685
営業利益	349	450	101
経常利益	333	450	117
親会社株主に帰属する 当期純利益	241	290	49
有利子負債	2,104	1,940	△164
自己資本	2,865	3,140	275
自己資本利益率（ROE）	8.7%	9.7%	1.0%
D/E レシオ	0.73倍	0.62倍	△0.11倍

II

中期経営計画の概要

Change & Challenge 2018

■ 経営理念

「共存同栄」

「有限の鉱業から無限の工業へ」

■ グループビジョン

「技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。」

フロンティアスピリットを胸に、無限の技術で世界と共生するUBEグループは、モノづくりを通して、次代の価値を創造し続けます

■ 10年後のありたい姿

「顧客に価値を創出し続ける企業」

UBEグループは市場ニーズを先取りした製品・サービスを創り出し、拡大する事業領域で存在感を発揮できる企業として社会に貢献します

■ 持続的成長を可能にする経営基盤の強化

- **利益率**を強く意識。
コストダウンを徹底し、**既存製品の収益力向上**を図る
- **連結キャッシュフロー重視**は堅持。
成長のための投資を実施し、**成果を確実に刈り取る**
- **海外拠点の拡充と国内外グループ会社の連携深化**。
事業環境の変化にスピーディに対応
- **化学部門の復活と更なる成長**
(営業利益200億円レベルまで回復、次の成長ステージへの出発点に立つ)

■ 資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献

- **温室効果ガスの削減**  **2021年度目標:15%削減**
(2005年度比)
- **環境負荷低減に貢献する技術・製品の創出・拡大**

■ 主要項目

營業利益

500億円

2016年度
実績

349億円

經常利益

490億円

333億円

■ 経営指標

売上高営業利益率
(ROS)

6.5%以上

5.7%

自己資本利益率
(ROE)

9.0%以上

8.7%

今後志向する事業ドメイン：「環境・エネルギー」、「モビリティ」、「建築・インフラ」、「ヘルスケア」

	化学・医薬	建設資材	機械	エネ・環
育成分野	新規電池材料、機能性無機材料（蛍光体・光学材料等） バイオマス燃料、航空分野（チラノ繊維） 環境資材（中性固化材・重金属不溶化材等）、バイオ関連材料			
積極拡大事業	ナイロン 合成ゴム セパレータ 高機能コーティング 医薬	ファインマテリアル （モスハイジ等）	機械サービス	
基盤事業	カプロラクタム・工業薬品 ファインケミカル セラミックス 分離膜	セメント・生コン カルシア・マグネシア リサイクル	成形機 産機 製鋼	石炭 電力
再生・再構築事業	ポリイミド 電解液			

- 育成分野 : 将来の収益源とすべく成長を促進する
- 積極拡大事業 : 市場の拡大が見込まれ、当社の得意分野で一段の成長を目指す
- 基盤事業 : 安定的な収益の維持・拡大を目指す
- 再生・再構築事業 : ビジネスモデルを見直し、事業の再構築を図る

■ 化学 完全復活と成長ドライバーの顕在化

- ・ **積極拡大事業**（ナイロン・合成ゴム・セパレータ・高機能コーティング）
▶ 重点的な資源投入により利益拡大を牽引
- ・ **基盤事業**（カプロラクタム・工業薬品、ファインケミカル、セラミックス、分離膜）
▶ コストダウンや顧客要求に合わせた製品展開で利益確保
- ・ **再生／再構築事業**（ポリイミド、電解液）
▶ 2016年度黒字化達成、
利益体質を磐石にし、再度成長路線へ



高機能コーティング（スピン）

■ 医薬

- ・ **自社医薬の研究開発パイプラインの充実**
- ・ **コストダウンと顧客要求に応じた体制の確立**



自社開発品（3剤）

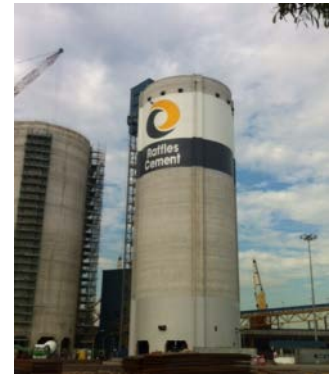
需要：セメント国内需要・輸出市況は中計策定時より悪化

コスト：石炭価格は'16年度下期に急上昇し、現在も上昇中

⇒将来の目標・到着地点を再確認し、**事業環境の変化に迅速に対応**

■ 基盤事業の収益力維持と強化

- セメント・生コン：コスト削減、生産合理化、廃棄物利用拡大
- 石灰石・宇部マテリアルズ：石灰石資源確保、生産合理化
- グループ会社との連携強化：資源事業、建材事業



シンガポールの出資先

■ 成長戦略の拡充と伸長

- 事業エリア拡大：東南アジア・オセアニアへの事業展開
- 事業領域拡大：環境資材（水質・土壌・大気）で事業展開

■ 機械 製品の競争力強化と海外サービス事業の拡大

● 成形機

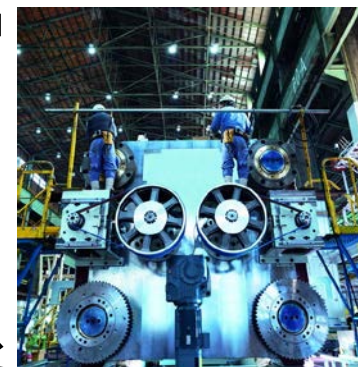
- ➡ ダイカストマシン：コストダウン、車の軽量化に対応した開発・拡販
- ➡ 射出成形機：三菱重工業(株)射出成形機事業との統合効果創出

● 産業機械

- ➡ 電力向け大型運炭設備のコストダウン

● 機械サービス

- ➡ 射出成形機統合による海外サービス拠点再編、サービス活動強化
- ➡ 生産性・機能改善メニュー、スペア部品在庫拡充でサポート力強化



射出成形機

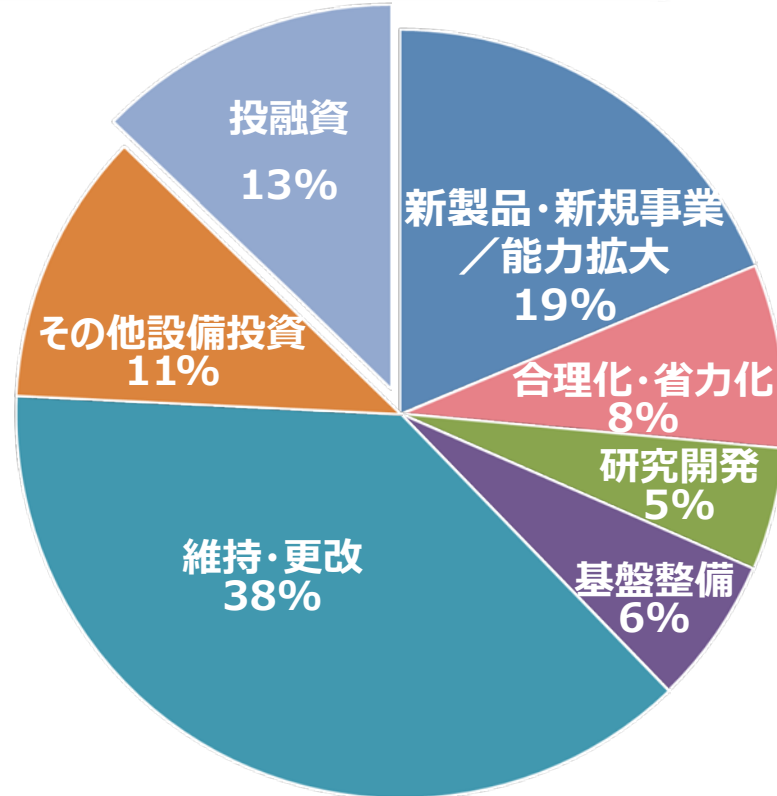
■ エネルギー・環境 エネルギーコスト競争力の強化

- 石炭 安価調達、港の整備、貯炭場の能力増強
- 電力 老朽化した自家発電所の計画的・効率的な更新



貯炭場

**3年間の設備投資・投融資
1,500億円**



- **成長投資と合理化投資と維持更改** → それぞれに経営資源を投入 (**1,300億円**)
- **投融資 (M&A含む)** → 既存事業強化や周辺事業領域拡大を加速 (**200億円**)

● **キャッシュフロー計画 (3年間)**

営業キャッシュフロー :	1,760億円
投資キャッシュフロー :	△1,500億円
フリーキャッシュフロー :	260億円

■ 主要項目

項目	単位	'16年度実績	'18年度計画
売上高	億円	6,165	7,500
営業利益	億円	349	500
経常利益	億円	333	490
親会社に帰属する当期純利益	億円	241	290
有利子負債	億円	2,104	2,000
自己資本	億円	2,865	3,200

■ 経営指標

項目	単位	'16年度実績	'18年度計画
D/Eレシオ	倍	0.73	0.65 以下
自己資本比率	%	40.4	40.0 以上
売上高営業利益率	%	5.7	6.5 以上
自己資本利益率	%	8.7	9.0 以上

- ・化学部門が成長の原動力に
- ・非化学部門は持続的収益基盤を維持・強化

(単位：億円)

セグメント	売上高			営業利益		
	'16年度 (実績)	'17年度 (予想)	'18年度 (計画)	'16年度 (実績)	'17年度 (予想)	'18年度 (計画)
化学	2,583	2,950	3,450	96	235	200
医薬	109	100	90	24	20	5
建設資材	2,272	2,350	2,500	162	130	200
機械	716	900	830	36	50	65
エネルギー・環境	597	700	730	28	20	35
その他	△114	△150	△100	0	△5	△5
計	6,165	6,850	7,500	349	450	500

18年度 前提条件（環境要因）：

為替：110円/ドル、ナフサ（CIF）540ドル/t、豪州炭（CIF）74.5ドル/t

Ⅲ

株主還元の考え方

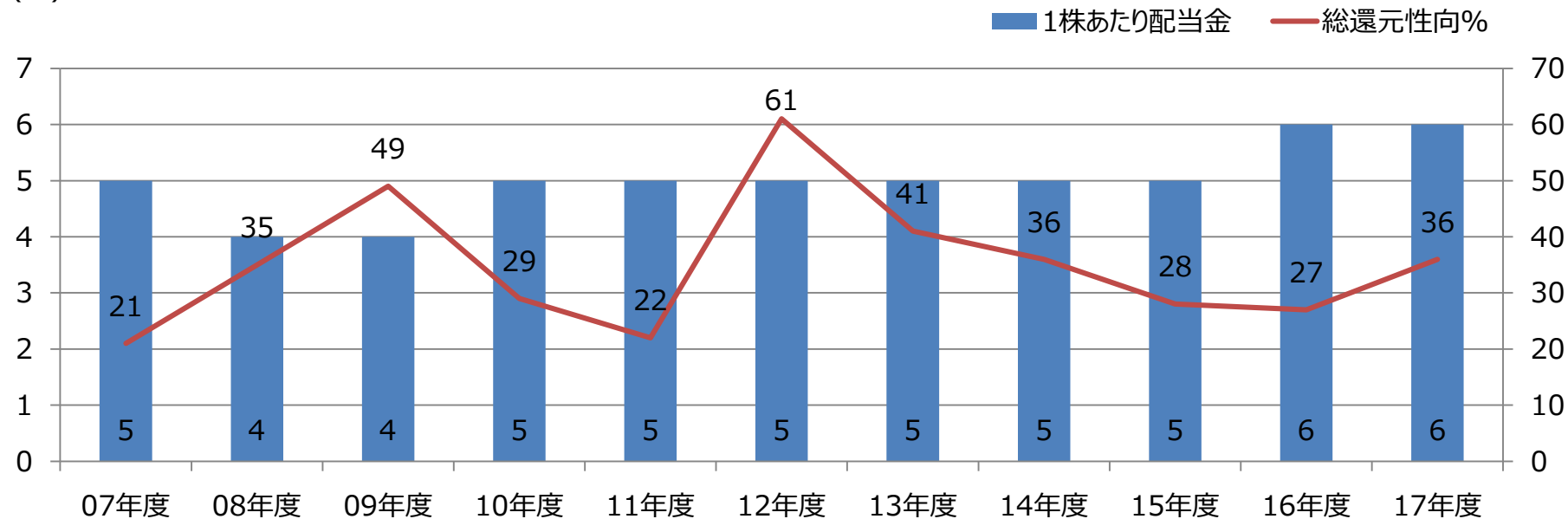
- 財務の健全性の維持・向上
- 将来の投資に備えた自己資本の充実
- 安定配当を意識



➔ 総還元性向は原則として30%以上とする

配当金推移

(円)



[注：配当金 = 翌年度支払い]

技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合があります。

そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。ただし、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。